

2019年度 大学女性協会京都支部総会

日時 4月13日(土)
会場 ウィングス京都
司会 高橋侑子
出席者 19名

恵まれた天気となった4月13日、1年の総括として支部総会が執り行われました。出席者18名、委任状15通で会は成立。事業報告や会計報告が為されました。そして今年度は役員交代の年。松田支部長から高橋新支部長へとバトンが渡されました。そして総会の最後には全国総会実行委員会の各担当者が進捗状況報告を行い、京都支部全体で情報の共有をいたしました。

開会の挨拶 松田栄子支部長(要旨)

いよいよ来月には、京都で全国総会を迎えることになりました。その目的に向かって、様々な会員が、それぞれの力を発揮し、協力し合い、また、新入会員を迎え若い力を得て、今日の支部総会を迎えることができました。皆様の底力を感じた一年でした。今年度も力強く皆さまと共に歩んでいきたいと思っております。

高橋侑子新支部長挨拶(要旨)

高齢という事もあり、支部長を引き受けることに多少戸惑いもございました。しかし、他の役員の方々に快くお引き受け頂いたことで助けて頂きながら務めて参りたいと思っております。今回若い方に沢山入会していただき、役員もなるべく若い方にお願いを致しました。そこで、諸先輩方には積極的に会にご参加頂いて、遠慮なくご意見やアドバイスを頂くことが私の願いであります。今年度どうぞよろしくお願い致します。

講演 「食と免疫、福島は今」

講師：宇野賀津子氏

(公財)ルイ・パストゥール医学研究センター
基礎研究部室長、理学博士

1972年、大阪市立大学理学部生物学科卒業。
京都大学理学研究科単位取得退学、理学博士。

1986年、京都パストゥール研究所
(現ルイ・パストゥール医学研究センター) 入職。

性差・女性ライフサイクルの研究、女性研究者支援活動にも取り組む



活動の紹介

私自身の福島県初コンタクトは2011年。日本学術振興会の産学協力研究事業に関わる説明チーム(大阪大学を中心としたチーム)に参加し赴いた福島県の白河市での住民に向けた放射線の説明会であった。ここでは低線量放射線の生物への影響と食の重要性の話をした。

詳細は福島の線量がチェルノブイリを超える事がないと思った時点で、もしあるとすればガンや老化の促進への影響が考えられる。しかし免疫の研究者として言える事として今からでも影響を軽減する事は出来るという事、ストレスが免疫には一番良くないという事、これからの生き方が大切だという事を主に話した。

後々考えたこのチームの特徴は女性の専門家や医者等多様な人たちでチームを組んだ事。その為か、過激な対応を受ける事もなかった。(他では卵を投げられたところもあったそうだ)

昼間は学校の周りや地域の線量を測りエリア別の線量を出して説明会に臨み、最後には白河市から感謝状も頂く事もできた。

放射線とはなにか

ベクレル—Bq— (放射能)・・・放射能の強さを表す単位。(放射性物質から1秒間に出る線の数。)

食品の放射線量の単位。

シーベルト—Sv— (線量)・・・放射線によってどれだけ影響があるかを表す。

(1シーベルト=1000ミリシーベルト)

人が受けてどれくらいの影響があるかを表す単位。

放射線は福島だけでなく身近にあるもの。宇宙からや食品から放出されるもの、特にカリウム由来の放射線は多い。そのためどの地域にいてもそれなりに摂取している。自然放射線の年間平均約 2.4 ミリシーベルトは受けているのだ。

福島の現状

○屋内、外の差

→ほとんど差はない。保育園、園庭で計測した所、園庭の真ん中が一番低い。逆に端は雨が降ると端に流れる為高め。

○野菜

→市場に出回っているものは安全。

○家庭菜園

→白菜、キャベツ等も大した線量ではなかった。自宅の野菜が基準値を超えたとしても、土を入れ替え、肥料をカリウムの多いものを選べば食品移行が減る。

○山菜、たけのこ、きのこ

→他の野菜に比べれば少し高めだが、基準値超えはほぼ無い。以前松茸で 3000 Bq/kg というのがあったが、年に 1 度、1 kg も食べないので、個人で食べるという判断をしても大して健康に影響のない範囲である。

○お米

→全袋検査を継続しているが、4 年連続 0。そろそろサンプリングによる検査に移行してはどうかという話になっている。

○大気

→2011 年秋には震災前のレベルに戻った。各家庭での洗濯物の外干しも土埃に注意すれば可能。

—2012 年コープ福島が行った《陰膳方式による放射性物質の測定》—
(2011 年秋～2012 年春のデータ)

県内 100 軒の家庭で 1 人分の食事を 2 日間分冷凍してセンターに送り調査。

結果→ほぼ野菜由来の放射線。セシウムは 10 Bq 以下。1 検体あたりの測定時間は 14 時間で、それほどわずかな量だという事になる。

日本、福島 of 土壌

食品への移行という意味での放射能汚染はチェルノブイリに比べて少なかった。それは日本の土（特に福島の土）が粘土質だからだ。粘土とセシウムの結合は大きく、汚染のわりに食品への移行が少なかった。福島で米の生産が出来るのはこの事による。一方チェルノブイリ原発に近いベラルーシの土質はサラサラの砂地だった。

世界の放射線

行く先々で携帯型の計測器で放射線量を測っているが関東より関西が高めだったり、質の良い大理石を使用した建物内は高かったりと、原発の有無は関係なく放射線は計測された。国際線の飛行機に乗ると原発付近に行っただけの線量になる。世界には福島より高い線量の地域は沢山あった。

物理専門家の中には原発等反対する声もあるが、生物医学の観点からは放射線治療で多くの人の命が助かっている。日本で放射線について習うのは広島、長崎の原爆が初めてで、知識がほぼないのも問題。

風評被害

リスクを過剰に伝え恐怖を煽る無責任な行動を目の当たりにした経験がある。

今までエイズ教育にも関わってきたが、HIV の子供たちに対して陰性の証明書を持ってこないと言えないと登校できないと言う学校があったので、血が一滴付着しても感染する事はない等説明しに行った。

事故以降放射線による発ガンリスクも言われるが、実際日本人の発ガンリスクのベースは30%あり、それに少し加算される程度なのである。

そして福島県外避難が増えた2011年夏以降。原因としてリスクコミュニケーションの失敗が挙げられる。ツイッター解析をしたところ、2011年5月以降リスクを恐れるツイートが増加し大勢を占め、科学的な情報発信は埋もれてしまっていた。

多くの免疫力向上方法

有名な免疫細胞にナチュラルキラー細胞がある。これを活性化する方法として

- ・ 笑う・・・ガン患者に漫才等で大笑いしてもらい、その前後で数値を測った所
大笑いの後は免疫機能が上がった。
- ・ お化粧・・・避難女性にお化粧とハンドマッサージを施しストレスを下げる。
- ・ 食選び・・・広島、長崎の人で野菜や果物をしっかり食べている人の免疫機能が高かった。

—実験—

コップにヨウ素（イソジンうがい液）を水で薄めた液を入れ、その中にいくつか食品を浸し、その色の変化を見る。（酸化還元反応）



（左から・しいたけ、くるみ、にんにく、いか、とうがらし）
透明に近いものがより酸化還元反応が強く、抗酸化作用があるという事になる。

おわりに

この実験から、自分がこれからどのようなライフスタイルをとるかが重要になる。植物が活性酸素を消去する為にポリフェノールやビタミンを生成している様に、人間も生活の中で食品を選び、感謝していただく事が大切。結論として、今出回っている福島食品は問題ない。美味しい果物や野菜も沢山あるので、ぜひ選び取り、召し上がって頂きたい。

講演後も会員から次々質問が出て、活気のある時間でした。

小さい子供を育てている身として、何となく福島産の食品を避けていた自分。ネットで検索した福島食品の安全性の情報はネガティブなものが多く、そしてそれを鵜呑みにしていた事を反省いたしました。そして同時に福島食品を購入して復興支援が出来る喜びも感じられた素晴らしい講演でした。一人でも多くの方が知り、広がり、そして真の復興に繋がることを心から祈っております。

閉会の挨拶 久保宜子新副支部長

皆様、本日午前中は支部総会で熱心にご討議頂き、そして午後は講演会拝聴と長時間にわたり大変お疲れ様でした。新しい年度を迎え、また新たなスタートとなります。前年度の役員会の皆様ありがとうございました。今年度もどうぞ宜しくお願いいたします。いよいよ来月には令和の新しい時代最初の全国総会が京都で開催され、100名以上の会員の皆様を全国からお迎えすることになりますので、私たち会員一同心を一つに頑張りましょう。只今、全国総会が無事に進行されますように、そしてご参加の皆様には新緑の美しい京都を十分に楽しんで頂けますようにと実行委員会では、準備を進めているところです。どうぞ皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

閉会後は恒例のミニバザーを開催。会員が厳選した商品が並び、盛会となりました。